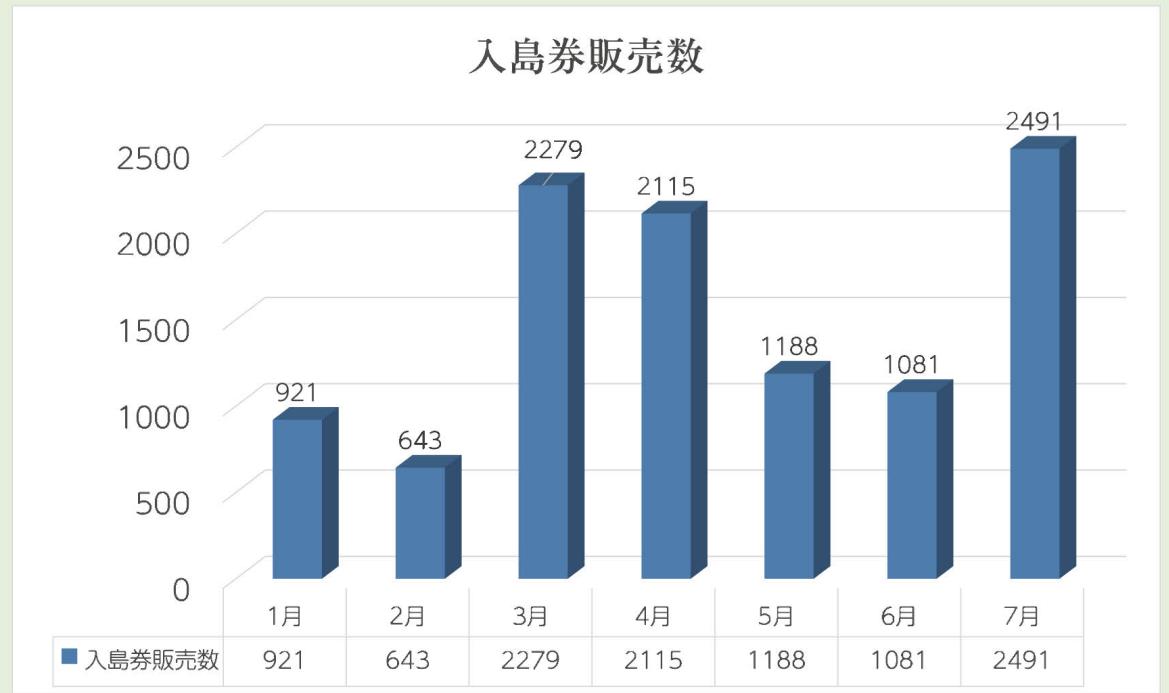


# 07 2021年入島料収受実績

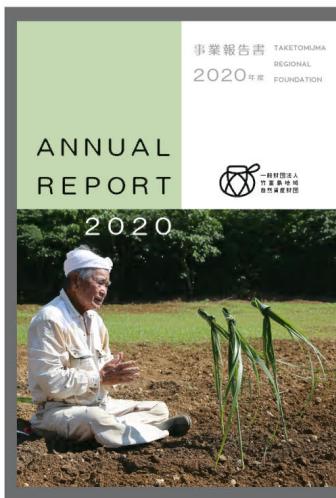
2021年1月～の入島料収受実績は下記のようになります。再び発出された緊急事態宣言の影響もあり相変わらず大変厳しい収受実績なっておりますが、7月から若干の回復傾向を見せております。今後ともご協力をよろしくお願いします。



## お知らせ

財団ホームページより令和2年度の年次報告書をご覧いただけます。財団2年目の活動報告や決算概要、島内賛同事業所／入島券販売取扱事業所一覧などがご覧いただけます。財団のホームページより「財団について」→最下部「プレスリリース」からダウンロードできますので是非ご覧ください。

竹富島 財団



竹富島地域自然資産財団 季刊誌

ジャーナル

# てーどうん JOURNAL

2021.Aug. Vol.07&08.



© Maehara Motoo

竹富島では、そんなに遠くない昔。  
あまり便利とは言えないけれど  
自然体で暮らせる心豊かな時代がありました。

私たちは入島料で、島がいつの間にか失ってしまったもの、  
忘れてしまったものを取り戻すべく活動を進めてまいります。

## 01 設立2年目を迎えて

世界規模に拡大した新型コロナウイルス感染症は、日本最南端の小さな竹富島にも多大なる影響をもたらしました。2019年5月に発足したよちよち歩きの私たちの活動は、入域観光客激減による協力金の減収、三密を避けるための会合の自粛など、竹富島の取り組みにおける最大の長所である「集まって話し合う」ことが往々にして叶わず、年初に計画した幾つかが活動自粛により頓挫し延期の憂き目にあいました。

しかし、当財団には、私たちや先人の思いばかりでなく、関連省庁をはじめ竹富町、竹富島地域自然資産運営協議会、そして訪れる皆様の思いが込められています。私たには、自然環境保全事業や自然環境トラスト活動を通じて島を再生し、次世代へバトンを繋げるという大きなシクブン（役割）がございます。引き続き、竹富島地域自然資産地域計画に基づき、竹富島を訪れる皆様方より協力金をお預かりし、この協力金を原資に島の再生を図ってまいります。何卒ご理解ご協力を賜わりますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

理事長 上勢頭 篤



## 02 ウッドチッパーの寄贈

大山榮一氏よりウッドチッパーを寄贈していただきました。環境保全活動のため、駆除した外来種であるギンネムを細かく碎いて肥料などに活用できるウッドチッパーを役立てて欲しいとのこと。マメ科の植物であるギンネムは、根に共存する根粒菌のおかげで荒れた土地でも植物の成長に必要な窒素成分を潤沢に蓄えているので、使用方法によって良い肥料になります。葉や実は分別して粉碎し防草の活用方法も試していきます。今後このウッドチッパーを活用し竹富島の環境保全を進めていきます。心より御礼を申し上げます。



## 03 竹富小中学校で農作物の植付け



竹富島の農耕文化が希薄になりつつある現代において、次世代を担う子供達に島の農耕に触れてもらう機会を作ろうということで、「竹富小中学校」と「星のや竹富島」を中心として学校敷地内の畑で農作物の植え付けを実施しました。

## 04 粟の収穫



昨年12月に種まきを行なった粟の収穫を行ないませんでした。昨年に比べて、今年は大きな虫害や鳥害もなく良い実の入り様。講師である前本隆一氏から収穫方法を教わり実施しました。今年の粟は、豊作と言って良い出来具合で軽トラ半分にもなる量を収穫しました。

## 05 コンドイ浜林の中の清掃



コンドイビーチ駐輪場すぐそばの林の中に多くのゴミが散乱していたためゴミ拾いを行ないました。地面が見える面積よりゴミの面積が多いような場所も見受けられました。友利観光の方や常連さんにも手伝っていただき、約2時間のゴミ拾いを実施しました。

## 06 旧與那国家粘土池の増設



国の重要文化財「旧與那國家住宅」の修復工事に使用される瓦ぶきに使用する土作り。工事の範囲が広がったことから隣り合わせの位置に池を増設。さらに新設した粘土池も熟成してきたので、土壁を崩してひとつの粘土池として混合しました。